

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に沿ったケアをするように心掛けている。職場会議開始時全員で唱和している。	6項目から成る基本理念を事務所内に掲示すると共に月2回行われる職場会議の席上全員で唱和し理念の共有を図りつつ実践に繋げている。利用者や家族に対しては申込時にホームとして力を入れて取り組んでいることと合わせ理念について話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に何度か交流センターにて地域の方々による催し物に参加して、話をされる。地域のなんでも相談員の方が、訪問され、利用者様方と話をされている。	法人として区費を納め、回覧板も回していただき区の行事等を把握している。区との防災協定も結ばれており防災に対する協力体制が組まれている。また、敷地内に設置された防災倉庫内の各種防災用品も近隣の4つの区民に提供されるようになっている。複合施設1階の地域交流センターで毎月行われる腹話術や太鼓、カラオケ等の地域ボランティアの来訪の際には利用者も参加し楽しいひと時を過ごして。中学生と特別支援学校の生徒がそれぞれ2人、2日間、職場体験で来訪し食事作りや利用者とは話し交流の時を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生、中学生、障害者の職場体験の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて、地域の方々に活動報告をして率直な意見を頂き、業務に生かしている。	3ヶ月に1回、家族代表、区長、地域消防団員、民生児童委員、地区老人クラブ会長、広域連合職員、市高齢福祉課職員等の出席で実施している。活動状況や避難訓練、地域との連携や利用者の日常、ヒヤリハット等の報告をし、意見や助言をいただくことで内容の濃い会議となっておりサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査時のみ。	わからないことや疑問点について市介護保険課に相談している。なんでも相談員が2ヶ月に1回、2名来訪し利用者とは話し、特別なことがあった場合には書面にて報告がされている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い立ち会われる家族もいる。地域サロンに管理者が出向き認知症について話をしたことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制止することなく見守り、寄り添うケアに取り組んでいる。	エレベータードアと階段ドアの開閉は安全確保のためテンキーで管理している。現在拘束を必要とする利用者はいない。離脱傾向の強い利用者があるが寄り添い、話を聞き、近隣を散歩することで対応している。転倒防止のため家族と相談しセンサーマット使用の利用者が日中、夜間ともいる。年2回外部講師を招き身体拘束の研修会を行い、職場会議でも話し合いを重ね、拘束のないケアについて意識を高め実践している。	

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内の研修に参加し、他の事業所の方々と意見の交換を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があることは理解しているが、現時点では活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてゆっくり説明し、その都度不明なところがないか確認を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や来訪時に様子などのお話しをし、意見を聞いている。また家族会時に懇談会を開いて意見を聞き業務に生かしている。	利用者に気持ちを込め寄り添うことで意向を汲み取るようにしている。家族の来訪は週1回～1ヶ月に1回と様々であるが利用者の受診に合わせ月に1回は必ず来訪していただくようになっている。来訪時には細かく話しているが、月1回発行される便り「こころ」と各担当者より送られる利用者の1ヶ月の様子を纏めた手書きの手紙が家族に喜ばれている。家族会も年2回、夏と冬に行い懇談会では内容報告や意見交換等を行い、併せ夏には昼食を共に楽しみ、冬はケーキとお茶で歌とゲームなどを楽しみ交流のひと時を持っている。また、誕生日や母の日にプレゼントを持って来られる家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職責者会議での話は、職場会で話し、意見交流している。光熱費などの節約について意見を出し、各職員が実行に移している。	月1回ユニット毎に職場会議を開催し利用者個々のケアや職員の仕事の取り組み内容等を3時間以上の時間を掛けて話し合い、より良い支援に繋げている。また、2ヶ月に1回全体でのホーム会議を実施し運営の向上に向けて積極的な意見交換を行っている。目標管理制度があり年1回自己評価を提出し、法人での評価に繋げている。6月には新人職員の歓迎会、12月にはクリスマスプレゼントの交換会を行うなど、職員間の交流の場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は細目に利用者へ声を掛けたり、職員の業務は把握している。相談事などもしっかり聞いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修が月2回あるので、勤務を調整しながら参加している。		

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員体制がとれず、シフトに入っているの で、交流の場に余り参加できず、サービス 向上させる取り組みが、出来ていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際ご本人に生活歴や好きなこと を話して頂き傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご苦勞、ご本人の今までの様子を ゆっくり聴き理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も考えながらご家族に説明 している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者から助けってもらったり励まして もらえる関係作りが出来ている。お互いが 和やかな生活を送れるような場面作り、声 掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1カ月の様子を手紙に書くことでご家族から 「生活内容や様子が分かり嬉しい」という意 見を頂く。来訪時にはご本人とご家族が ゆっくり話ができるように努めている。ご家 族と、職員との信用関係も出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご友人が来訪された時はゆっくり話 ができるよう環境に配慮している。同級会へ の参加の支援を行っている。	同級生や友人の来訪がある利用者があり、同級会に出席している方もいる。来訪の際には関係が継続するよう気持ち良く対応し、お茶をお出しし居室や複合施設1階の多目的ホールなどで話をされ寛いでいる。手紙のやり取りをしている方には職員がお手伝いをしている。ホーム外での活動も大事にしており、希望によりスーパーやホームセンター、衣料品店などへの買い物に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係がうまくいくように職員が間に入り調整役になっている	個別に話を聴いたり皆さんと楽しく過ごせ、 利用者同士の関係がうまくいくように職員が 間に入り調整役になっている。		

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、病院へ様子を見に行きご家族からも様子を聞いたり相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情などをしっかり観察し、職場会でアセスメントを行い把握に努めている。	約6割の方が言葉で意思表示が出来る。利用者と気持ちが通い合う人間関係の構築に力を入れ取り組んでいる。自己決定を大事にし無理強いをせずに寄り添い提案し全てを受け止め、表現出来ない方については更に気を付け思いを引き出すように努めている。申し送りの中で日々の状況を引き継ぎ、また、家族から聞いた過去からの生活歴も参考にし職場会議で話し合い希望に沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を念頭に置きその方に合った対応をしたり趣味を生かせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを理解し行動などを把握し不安なく過ごせるように支援している。心身状態にも注意し体調の変化を見て、状態が良くない場合はバイタルチェック、SPO2の測定を細目に行い、職員同士申し送りをしっかりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議の時に各利用者の担当者から本人が日常で困っていること等を報告し職員全員で話し合い反映している。アセスメントを含め職場会で話し合いモニタリングを行っている。	職員は1~2名の利用者を担当している。月1回の職場会議でモニタリングを行い利用者の状況を報告し合い、職員間の意見交換も行われ3~6ヶ月に1回プランを見直し、変化があれば随時見直しをしている。家族の希望については面会時に話し、経過作成後、家族の状況に合わせ手紙等も含めしっかり報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	IPadの記録が簡単な入力内容になっており、手書きの時より記録の内容が簡略されているがパソコンからも見る事が出来、職員同士情報の共有は出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が定期受診に同行できなかつたり急変時など受診の同行をしている。日用品の買い物も利用者と一緒にしたり地域の行事も積極的に参加している。		

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流センターにてボランティアによる催し物に参加している。ご利用者さまのご家族様がコーラスの合唱をされており、コンサートに出掛ける事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調がいつもと違う時などかかりつけ医に連絡を取り、アドバイス・指示を頂いている。	ほとんどの利用者が複合施設と同じ敷地内にある法人協力医のクリニックを主治医としており月1回、家族の来訪時にお連れしている。体調変化により往診の対応もある。契約の訪問看護師の来訪が月2回あり健康管理を含め様々な相談に乗っていただいております。オンコールでの対応も可能となっている。また、電話でのアドバイスをいただくことが増えて来ている。歯科についても複合施設と同じ敷地内の医院対応で、定期的に口腔ケアの報告をし必要に応じ受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護の定期訪問時様子を伝えアドバイスを受けている。急変時・相談など指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子を見に行き、病院関係者の方に情報を頂いている。退院時は病院関係者と密接なカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた方については、今後どうしていくかご家族とお話し、ご家族の意見を尊重し、主治医・訪看さんと連絡しながら指示・アドバイスを頂いている。	重度化した時の指針があり利用契約時に説明し希望を聞き、更にその状況に至った時に改めて意向を聞くようにしている。開設以来病院や他施設に移られる方が多く看取り経験はまだないが、家族の希望を聞き、医療行為を必要としない状況下で家族、医師、看護師と連携を取りながら看取り支援を進めて行く方針である。看取り研修会やホーム内での話し合い等で終末期に向けた職員の心構えは出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は全員緊急時のマニュアルを周知している。AEDの研修も順番で研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っている。	年2回地域の消防団参加で避難訓練、消火訓練、機器の点検等を行っている。避難訓練は利用者も参加し階段を使って複合施設1階まで下りる訓練を行った。また、簡易タンクを作る実習も行い、訓練として利用者役の職員を実際に乗せ行っている。消防署が来訪し連絡網の確認と合わせ通報訓練も実施している。各ユニット入り口壁面には利用者の防災頭巾と衣類が準備され非常時の備えとしている。備蓄は防災倉庫に充分準備され、非常食も全員で食べ経験している。	

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーを大切にしている。コミュニケーションを取りながらその方に合った言葉かけや、対応をしている。	その人らしさと生きてきたことを大事にし、人生の先輩として尊敬の念を持ち言葉遣いには気を付け、利用者の話を最後までよく聞くように心掛けている。利用者一人ひとりの嫌なことは解っているのでそのようなことはしないようにしている。トイレの声掛けには特に気を遣って対応している。呼び方は苗字や名前に「さん」を付けてお呼びし、入室の際にはノックをし許可をいただき入室するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、やりたいことをやって頂く。迷っている時は選択肢を増やしてみる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中心は利用者であることは心掛けているがいろんな事が、出来なくなってきた方、介助の必要な方が増えているので、一人ひとりのペースに合わせる事が出来なくなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方には化粧品を手渡しし、順番に塗れるように支援をしている。洋服はスタッフと一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、利用者が食材を切ったり、炒めたりして煮物などは一緒に味付けをしている。また、食事の準備や片付けも行っている。	何らかの介助を必要とする利用者が数名いるが、ほとんどの利用者は自力で食事が出来る状況である。献立は法人契約の食品会社の栄養士が立てたものを使用している。「じいじのいえ」ユニットは調理から片付けまで全員で行い、「ばあばのいえ」ユニットでは法人厨房より料理が届き盛り付けをし力量に応じお手伝いもしている。食事前に口腔体操をしっかり行い、職員と話をしながらの楽しい食事となっている。誕生日会には希望のものを調理したり、ラーメンや定食を食べに出掛けたりしている。正月、ひな祭り等行事には季節に合わせた特別食が出され、月1回は全国の郷土料理が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化のある方にはご飯の量を調節している。主治医より、水分制限のある方は毎回水分量を計るよう指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は見守り、出来ない方にはスタッフが声掛けして磨き残し、義歯の洗浄を介助している。		

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェック表を用意し、尿意のない方には定時誘導している。ご自分でトイレに行ける方は自尊心に配慮しながら排泄の確認をさせて頂いている。	排泄については自立されている方が半数で、一部介助の方が三分の一、全介助の方が若干名という状況である。また、布パンツ使用の方が三分の一、リハビリパンツとパット併用の方が半数、オムツ使用の方が数名という現状である。排泄表を作成し基本的には食前、食後に声掛けと誘導を行っているが、各利用者のパターンに合わせ声掛けを行いスムーズな排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し排便がない方には10時と15時のお茶の時間にお茶の寒天ゼリーにオリゴ糖をかけて食べてもらい様子を見ている。また、水分補給も細目に摂ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員の都合で行っている。入浴中は1対1でゆっくり入ってもらい楽しく話をしながら入浴してもらうよう心掛けている。	全利用者が何らかの介助を必要としており、二人介助の利用者もいる。基本的には週2回入浴を行っている。入浴拒否の方がいるが人を変え、言葉を変え入浴に誘っている。体調に変化が出てきた場合には複合施設3階の特別養護老人ホームの機械浴が使用可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体調や表情、希望に考慮して休息が取れるように支援している。日中活動することで夜しっかり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋を個人ファイルに挟み職員全員が観る事ができるようにしている。薬の変更があった時は、必ず申し送りノートに記入し全員で周知し症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、洗濯干し・たたみ、冬には干し柿、野沢菜漬け等利用者にいる教える場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩、ドライブ等は積極的に出掛けている。ご家族も時間が出来た時は、食事、買い物に連れていってくれる。冬場は、インフルエンザ等の感染があるため、外に出る事を禁止する時期もある	外出時、車イス使用の方や杖使用の方が数名いるが、他の方は自力歩行である。天気の良い日には施設の周りや高島城まで散歩に出掛けている。外に出たい方も多く、また、職員側にも外の空気に触れ季節を味あわせてあげたいという気持ちが強くあり、4月から12月迄の気候の安定している季節には週2~3回ドライブに出掛けており、花見、紅葉狩り、いちご狩り等に合わせ日用品等の希望の買い物にも出掛け、外の空気に触れる機会を設け楽しんでいる。更にペランダで夏野菜の栽培を楽しみ諏訪湖の花火大会も見物し楽しんでいる。	

こころのひろばグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。買い物の際は自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に電話を掛けている。手紙を頂いた時は、担当職員が間に入り返事を書いてもらい、グループホームの生活等の様子は、担当職員が代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に季節の飾りを作り、季節感を感じてもらっている。職員は利用者が不快にならないよう、音・温度等には十分注意している。	エレベータホールから共用部分の食堂兼ホールは十分な広さがあり、冬場、散歩代りに歩くのに最適な広さが確保されている。また、掃除も行き届き清潔感が保たれ寛いだ雰囲気が感じられる。テレビの前には大きなソファが置かれ利用者が話をしながらオリンピックを観戦し楽しんでいるところを拝見し、ここでの自由な生活の一端を垣間見ることができた。入口の壁には利用者の書初めが飾られている。空調はエアコンで快適に温度調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブルの配置に配慮し、仲の良い利用者同士くつろいでいる。ソファで横になって過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、ご家族がプレゼントした物を置いている。グループホームで制作した塗り絵や折り紙などを置いている。	各居室には備え付けの整理ダンスの他、使い慣れた衣装ケース、ハンガーラックなどが置かれ衣類の整理がされている。壁には家族の写真、職員より送られた誕生日のメッセージカード、ぬり絵等が飾られ、また、テレビやキーボード等趣味の物も持ち込まれご自分の生活の場所を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内では各々好きなように過ごされ、何があるかかわかっている方もいる。分からない方の為にも物の配置や置き方に配慮している。自由に動けるように、危ないと思うものは、その都度片づけをしている。		